

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 日明 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

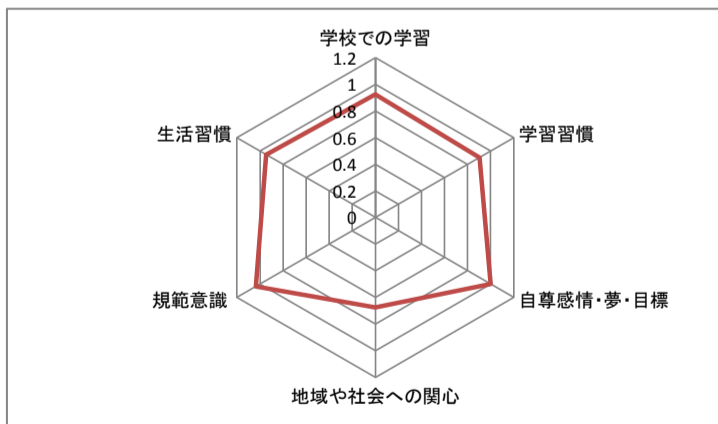
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全国・本市と比較すると、平均正答率が低い。「話す・聞く」「読む」「知識・理解」に誤答が多く、課題が見られる。問題文を的確に読む、自分の考えを最後まできちんと話すなど手だてが必要である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題1: 図書館への行き方の説明として適切なものを選択する。 問題6: 慣用語の意味と使い方として適切なものを選択する。	
	努力が必要な問題	問題8: 文の中で漢字を使う(せつ極的)。問題5: つながりが合っていない文を選び、正しく書き直す。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全国・本市と比較すると、平均正答率が低く、多くの領域で誤答が多く見られる。しっかりと問題文を読み、問題の意味を理解し考える力を身に付ける手だてが必要である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題1①: 話し合う場面で、参加者の質問の意図として適切なものを選択する。	
	努力が必要な問題	問題2②: 虫歯を防ぐ効果について、先生の話から分かったことを取り入れて書く。 問題1③: 言葉をどのように使っていくかについて二人のうち一人の意見を取り上げ、自分の意見を書く。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	正答数が4問と10問の児童数が同程度おり、2極化が見られるため、個別に支援を行う必要がある。「数と計算」の知識・理解に関する問題への誤答が多く、課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題1(1): 面積がそろっている2つのシートの混み具合について正しいものを選ぶ。	
	努力が必要な問題	問題2: 答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ。 問題7: (1)円周率を求める式として正しいものを選ぶ。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	正答数が1・2問と6～8問に児童が集中しており、2極化が認められ個別に支援をする必要がある。領域では「数量関係」の技能に関する問題に誤答が多く、課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題5(2): 4色を順に繰り返してつなげ輪飾りを作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ。	
	努力が必要な問題	問題3(1): メモの情報か、それぞれグラフのどのようなことに着目して書かれているかを理解し、記述する。 問題3(2): 棒グラフと帯グラフから読み取ることができことをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ。	
理科	全体的な傾向や特徴など	正答数が6～9問に児童が集中しており、平均正答率がわずかに低くなっている。とくに思考・判断を問う問題への誤答が多いため、しっかりと自分の考えをもって実験をする、実験結果から自分なりの考えを導き出すなど考える活動を充実させる必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題4(2): 海水と水道水を区別するため、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ。 問題2(1): 流れてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ。	
	努力が必要な問題	問題2(3): 流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降ったときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く。 問題4(4) 食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導き出す結論を書く。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>○成果 「日明っ子のきまり」を教室に掲示したり、終礼時に生徒指導の情報を共有し、全体で指導内容を統一することで、学校のきまりを守って行動することができている。</p> <p>○課題 朝食を食べていない・睡眠時間が決まっていない・家庭での自主学習の習慣がない・家庭学習の時間が少ない・地域への関心が薄いなどの課題がある。特に地域や社会への関心が薄いようである。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

学校全体で、朝自習の時間に基礎基本定着問題集の問題に取り組み、知識・技能の定着を図る。問題の内容を的確につかみ何が問われているのかを理解できるように、友達と話し合ったりグループで考え合ったりする活動を授業に多く取り入れるようにする。学年の実態に応じ、給食準備の時間等に補充学習を行うようにします。また、ひまわり学習塾などを活用するようにする。どの教科の授業でも、考える・書く・話し合う活動を確実に行うよう共通理解し、思考力や表現力を高めるようにする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

学校だよりやホームページに、本校の特徴や課題を記載し、家庭への周知を行うようにする。それと同時に、朝食や睡眠の大切さや自主学習の内容を保護者や児童に紹介することで、家庭と学校が協力して課題を解決できるようにする。また、今、地域でどのようなことが行われているか、社会でどのようなことが起こっているのかを帰りの会等で児童にわかりやすく伝えたり話題にしたりするようにする。自己肯定感を高めるために、教師が児童それぞれのよさが発揮された場面で称賛したり、家庭へ連絡したりするようにする。また、家庭でも学校で頑張ったことやほめられたことを称賛し、学校と家庭で協力しながら児童の自尊感情が高まるようにする。